

<p>疾病 (異常)</p>	<p>08 マレック病</p>	
<p>肉眼所見</p>	<p>1 内臓型</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳白色の結節病巣は諸臓器に散在～多発するが、脾臓と肝臓に認められることが多い。</li> <li>・結節病巣は実質に形成され、被膜下及び割面上に観察される。</li> <li>・腫瘍細胞がび慢性に増殖した肝臓や脾臓は著しく腫大、退色し、結節病巣は認められない。</li> </ul> <p>2 皮膚型</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・皮膚の羽包を中心に形成される隆起性病巣が多発～散在している。</li> <li>・病巣は頸部と下腿部に好発し、胸部、背部、大腿部にも認められる。</li> <li>・皮膚型と内臓型を併発する例も認められる。</li> </ul> <p>参考文献</p> <p>1 板倉智敏：マレック病，鶏病病理学カラーアトラス，7-11，学窓社，東京(1988)</p> <p>2 Lapen RF, et al: Distribution of gross cutaneous Marek's disease lesions, Poult Sci, 51, 334-336 (1972)</p>	
<p>廃棄等の措置の根拠</p>	<p>別表第10 (全部廃棄)</p>	
		
<p>内臓型：肝臓及び脾臓は腫大し、被膜下に乳白色の結節病巣が多発している。</p>	<p>内臓型：腫大した肝臓の被膜下に乳白色の結節病巣が多数認められる。</p>	<p>内臓型：腫大した脾臓の被膜下に大小様々な乳白色巣がみられる。</p>
		
<p>皮膚型：背側のほぼ全域、肩、翼等の皮膚にうっ血を伴う半球状病巣が多発している。</p>	<p>左の拡大像：半球状病巣の多くが羽包(矢印)を中心に形成されている。</p>	<p>皮膚型：リンパ様細胞が羽包(F)周囲の真皮に広範に増殖している。</p>